

久食テケリ、其ノ後暫クアツテ三人乍ラ俄ニ頸ヲ立テ病迷フ、物ヲ突キ難堪ク迷ヒ轉テ、師ト童子ノ童トハ死ヌ、弟子ノ僧ハ死許病テ落居テ不死ズ成ヌ、即チ其由ヲ左大臣殿聞セ給テ、哀ガリ歎カセ給フ事无限シ、貧カリツル僧ナレバ、何カバstromト押量ラセ給テ、葬ノ料ニ絹布米ナド多ク給ヒタリケレバ、外ニ有ル弟子童子ナド多ク來リ集テ、車ニ乗セテ葬テケリ、而ル間東大寺ニ有ル口口ト云フ僧、同ク御讀經ニ候ヒケルニ、其レモ殿ノ邊近キ所ニ、某僧ト同ジ房ニ宿シタリケルニ、其ノ同宿ノ僧ノ見ケレバ、口弟子ノ下法師ヲ呼テ私語テ物ヘ遣ツ、要事有テ物ヘ遣ニ「コソハ有ラメト見ル程ニ、即チ下法師返リ來ヌメリ、袖ニ物ヲ入レテ、袖ヲ覆テ隠シテ持來タリ置クヲ見レバ、平茸ヲ一袖ニ入レテ持來タル也ケリ、此ノ僧此ハ何ゾノ平茸ニカ有ラム、近來此ク奇異ギ事有ル比何ナル平茸ニカ有ラムト、怖シク見居タルニ、暫許有テ燒漬ニシテ持來ヌ、口飯ニモ不合セテ只此ノ平茸ノ限ヲ皆食ツ、

〔松屋筆記 九十六〕汁物、燒漬、附燒、煎物、

今昔廿八の十七語に、○中平茸ヲ燒漬ニシテ持來ヌ云々、燒漬ハ今俗付燒ツケヤキといふ是也、

色付燒

〔料理談合集〕名目のやきもの、部

いろ付やき 魚にてもとうふにても、其外松だけ長いものたぐひにても、玄やうゆに酒しほくわへ、うすくつけやきにする事をいふなり、何によらず醬油つけやく事也、うへにけしなどふりても吉、

〔當流節用料理大全〕御成式正獻立

一めざし色付燒

小櫃 八寸

〔當流節用料理大全〕四季常體料燒獻立の事

御夜食○中

引而

一燒物眞がつき

色付付やき